

# プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No. 18

平成29年8月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



統括顧問就任の挨拶

診療科紹介  
小児科

登録医紹介

医療法人 博友会 原眼科医院

特集チーム医療

SCTチーム

駅伝部活動報告

認定看護師紹介

マイタウン・マイホスピタル  
ミニニュース

お知らせ

マイチャレンジ！  
頑張りました。



# 『マイタウン・マイホスピタル』

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～  
 を当院の基本理念として皆様に信頼されるより良い  
 病院を目指してまいります。

## 統括顧問就任の挨拶

那須赤十字病院 統括顧問 有阪 治



統括顧問 有阪 治

鮮烈な体験は、私と当地を結びつける  
 記憶として刻まれております。

社会の変化やニーズに応じた医療、  
 看護を提供

うことに最初に関わる小児科は、数少ない子どもを健康、健全に成長させる責任があります。当院では、産科と連携する周産期医療や小児救急医療を充実させ、小児の多様な疾患に対応できる体制を整えてきました。

地域になくはならない  
 信頼される病院であるために

また、地域の皆様の生活習慣病予防対策の一環として、3歳健診で将来肥満になるリスクの高い幼児を推定し、早期から予防を始めるといふ新しい試みを、大田原市の協力を得て全国に先駆けて開始しました。今後も地域の子ども健康増進のために、様々な取り組みを推進していきたいと考えています。そのために、地域の先生方や関係する皆様との連携をさらに深めていければと思っております。

当病院が地域になくはならない信頼される病院であるよう、顧問の立場で微力ながら努力しますので、どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

本年4月より、統括顧問に就任いたしました。前任地である獨協医科大学では、子ども医療センター長として小児医療に従事してまいりましたが、県北医療圏の中核を担う当病院においては、医育大学で培った経験を生かすべく職員の一員として尽力する所存です。

私は10年前から非常勤で当院小児科外来を担当しておりましたが、移転前の病院で東日本大震災に遭遇した

産声をあげた子どもが、いかに育ち、どのような人生を過ごすのかとい

# 地域の先生達と連携し、 県北の子供達の健康の為に！

第一小児科部長 市川 剛

## 1名増員となり常勤7名に

小児科は、今春から1名増員となり常勤7名で入院、外来診療を行っております。入院では、種々の急性疾患を始めとして、成長障害や食物アレルギーの検査、腎疾患や呼吸器疾患、血液疾患など多岐の疾患の治療を行っております。また新生児医療にも力を入れており、NICU3床、GCU6床で、在胎28週以降の新生児に対応しております。特に新生児の出生後早期から十分な栄養を摂取してもらうことを心がけており、この点に関しては国内外でもトップ集団であるとの自負を持っております。

外来診療に関しては、血液疾患や心臓疾患、腎臓疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患などの専門医の医師の専門外来を始めとして、一般診療、予防接種、1ヶ月健診などを実施しております。また、大田原市とも連携し、3歳健診での肥満予防も世界に先駆けて実施しております。

## 24時間365日当院で受け入れる体制

小児科の救急の体制として、3次救急は24時間365日当院で受け入れる体制を取っております。2次救急に関しては、輪番制で火、木、日曜日を当院が担当しております。夜間なども含め、極力地域のみなさまの不安や需要にお応えできるようにしていきたいと考えております。

地域の先生達とも連携しつつ、今後

も県北の子供達の健康を下支えできるよう存在になればと日々精進したいと考えております。何かご希望や

ご意見などあれば気兼ねなくお伝えください。今後とも変わらぬご支援の程よろしく願います。



小川美織  
医師

高岩由哉  
医師

加納優治  
第一小児科副部長

市川 剛  
第一小児科部長

安藤裕輔  
医師

中山幸量  
医師

渡部あずさ  
第二小児科副部長

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている診療所の先生を紹介していきます。今回は「原眼科医院」をご紹介します。



(左:原 道子先生 右:原 裕先生)

対象疾患：眼科

## 先生にインタビュー

**当院との医療連携について期待されていることはどのようなことですか？**

僕の所は眼科単科ですから、他の診療科領域で眼科関連として最も期待することは脳神経外科関係です。患者さん自身は目の異常だと思っただけでもCT、MRI検査を那須赤十字病院に依頼すると、脳腫瘍などの頭蓋内病変や副鼻腔炎などが見つかったりします。僕は特に視神経というのが気になる所です。副鼻腔炎に併発しているケースなどは本当に早く診断して治療しなくてはならなくて一日も待たない、なんていう患者さんですとか、顔面骨折などの外傷ですとかすぐに受け入れてもらえるのはありがたいです。以前に比べ那須赤十字病院の医師の方々と接する機会が多くなっています。これからの連携を密にしていけるようお願いします。

**毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？**

長い休日は旅行が多いのですが、それ以外ですと今はポケモンGOを楽しんでいます。宇都宮の城址公園でレアアイテムが取れるという情報を得たの

で行って公園を歩いたり、上野の公園のどこそこにミニリユウがいると若者が走るのと一緒に走ったりしました。ランクが上がって嬉しいのだけれど、みんなもランクが上がって強く戦いにならないので、今は集めるだけです。

あと、映画が好きなのでよく那須フォーラムに行きます。ジャンルはスターウォーズなどのアクション系ですね。結構すいているので、封切りの良い映画を一番良い席で見られます。割引サービスなどもあって良く利用します。

**地域の方々、患者さんへ一言お願いします。**

患者さんにはいつもお待たせして申し訳ないと思います。何時に受付されたのか、どのくらいお待たせしているのかを気にしながら診療しているのですが、なかなか難しい問題ですね。

開業してからずっと大事にしていることは、セカンドオピニオンの重要性です。患者さんにより良いものを提供出来ればという思いで僕たちもアンテナを高くして情報収集しますし、また診療科などの垣根を作らないように心がけています。

### 基本情報

また、地域に密接に関われていると思うことは、過去に診療した患者さんのデータを取り出せることです。20年前のものでも見ることが出来ますので、そういうデータの蓄積は財産ですね。

- 院長 原 裕・原 道子
- 住所 大田市末広1-5-27
- 電話 0287-24-0011
- 診療科目 眼科
- 休診日 木曜、日曜、祝祭日



チーム医療とは従来、医師が中心となった医療を、職種の異なる医療従事者が、お互いの専門性を発揮し、スムーズに連携していく、患者中心の医療です。医療従事者は、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・管理栄養士・検査技師・放射線技師・事務など多職種で構成され、対等の立場でお互いの意見を尊重し、個々の患者さんの状態に合わせた質の高い医療を提供します。当院のチーム医療は全部で10チームになります。第4回の今回は「SCTチーム」を紹介します。

# SCT(Safety Control Team) (SCTチームとは)

医療安全は病院全体で取り組むことが大切であり「多職種で医療安全何かできない!」を検討したところ、医療安全管理者が横断的活動を行うこととなりSCTを平成26年4月に結成いたしました。

SCTは「Safety Control Team」の略であり、主として院内全体の医療安全を推進し、医療の質の向上と安全を確保するために、多職種により横断的活動を行うためのチームです。

那須赤十字病院SCTは、患者さん、来訪者ならびに職員と共に、医療の質と安全の向上に取り組んでいます。

## 【構成人員】

医師	5名
看護師	8名
薬剤師	2名
放射線技師	1名
検査技師	1名
理学療法士	1名
臨床工学技士	1名
事務	1名
事務局	2名

構成員は、厚生労働省が発行した「医療安全管理者の業務指針及び養成のた

めの研修プログラム作成指針」に則った研修を修了した院内の医療安全管理者です。

## 【活動内容】

●院内各部署の職場環境の「安全ラウンド」を行い、ラウンド状況の情報共有・検討会議、また「多職種による事例分析 研修会」などの支援を行っています。

●「安全ラウンド」ではSCTメンバーで毎月30分程度、危険予知の視点から職場環境をチェックし、改善が必要と思われる箇所の提案を行います。各部署では危険箇所の検討を行い、5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)活動に取り組みます。1ヶ月後に評価ラウンド、1年後の維持・継続ラウンドを行い、各部署とSCTの協働によって安全で働きやすい環境作りに努めています。

●「多職種による事例分析 研修会」では、事例分析法を学び、事故防止対策を多職種で検討し、チーム医療を推進しています。

●2ヶ月毎に医療安全に関する目標テーマを掲げ、院内全体で取り組んでいます。6・7月は「医療接遇は医療安全の基本」を実施いたしました。



安全ラウンド終了後ミーティングを実施



病棟にて薬品の保存状況の確認



病棟にて安全ラウンドの実施の様子

# 『第2回川内の郷にかえるマラソン』に メディカルランナーとして参加

那須赤十字病院 駅伝部 深沢 静



当日参加した那須赤十字病院駅伝部 部員

みなさんこんにちは。那須赤十字病院駅伝部です。我々は、那須臼赤の職員が結成している部活のひとつです。

去る2017年4月30日(日)、福島県川内村で開催の「川内の郷にかえるマラソン」に参加しました。同大会は、東日本震災復興のために、村の小学生の発案で始まったものです。村には、国

の天然記念物のモリアオガエルの生息地、平伏沼(へぶすぬま)があり、大会名の由来となっています。大会種目は親子マラソンからハーフマラソンまで、子供から大人まで楽しめます。当日は晴天に恵まれ、全国から約1,200名もの参加者と、ゲストランナーとして川内優輝さんと吉田香織さんを迎えて大変盛り上がりを見せ、村民の温かい応援もあって、とても雰囲気の良い大会となりました。

この大会から、我々はメディカルランナーの要請を受け、医師2名と部員9名が参加しました。メディカルランナーは、自らがランナーとなり、周囲を観察し、不測の事態の対応、救護活動を、救護スタッフの補助を担う役目をもっています。我々はメディカルランナーとしての参加は初めてで、普段とは違う緊張感の中で大会に臨みました。

当日は気温も上がりゴール直後に熱中症で倒れ込んでしまう方やふらつきながら走る方もいて、我々はこのような方々に対応・伴走しました。大会参加者全員がゴールテープを切り、完走後の何ともいえない満足した表情を見たときに、無事に役目を果たせたと感じました。

普段私たちは、記録を意識して走っていますが、今回は参加者のサポート役として参加し、貴重な経験となりました。また、震災復興にスポーツを通して貢献出来たことを嬉しく思います。そして、大会を盛り上げ、このような機会を与えてくださった川内村の村民・マラソン関係者の皆さまに感謝いたします。

今後とも、このような機会をいただければ積極的に参加していきます。



## 『透析患者さんの塩分・水分の上手な摂り方』

透析看護認定看護師 飯村 中二

そろそろ本格的な夏がやってきます。毎年の事ですが、この時期どうしても余分な塩分・水分を摂ってしまいがちです。そこで今回は特に、高血圧や体重増加の原因となる塩分・水分の摂り方についてお話したいと思います。そもそもなぜ透析患者さんは、塩分・水分制限をしなければならないかというと、塩分を多く摂るとのどが渇いて水分を多く摂ってしまうためです。その結果、腎臓で水分調節が出来ない為、体内に水が溜まります。このことが高血圧・心不全・心膜炎などの合併症を引き起こす原因になります。透析患者さんが1日に摂取する塩分量は、5～7gに抑えるようにしましょう。合併症を起こさないため次のことに注意しましょう。



- ～塩分制限を上手にする工夫～
- ① 香辛料(辛子わさび・こしょう・カレー粉など)を利用する。
  - ② 酢を利用する。(酢の物、三杯酢)
  - ③ 調味料を上からかけるのではなく、つけて食べる。
  - ④ 練り製品・加工品は避ける。
  - ⑤ 漬物、佃煮は食べない。
  - ⑥ 薄口醤油は、濃い口醤油よりも塩分が多いので注意!
- ～水分制限を上手にする工夫～
- ① 調理するとき、煮汁は煮詰めるように一緒に盛りつけない。
  - ② 麺類やカレー、煮物などの水分の多いメニューは重複して食べないようにする。
  - ③ 食事時間以外の水分摂取に気をつける。
  - ④ 暑い日でも出来るだけお茶は熱く、湯飲み茶碗は小さく少量に心がける。
  - ⑤ 水分の多い食べ物(プリン・ゼリー・かき氷・アイスクリームなど)は食べ過ぎないようにする。
- ※予定外に汗を多くかいた場合は追加で水分補給をして熱中症にならないように予防しましょう。

### マイタウン・マイホスピタル ミニニュース

#### 5月 ふれあい看護体験

#### 35名の高校生が参加/5月20日(土)

毎年実施されている看護体験が、本年度は栃木県北の35名の参加の下実施されました。病院長からの任命式の後、病棟での看護体験、当院在職中の先輩看護師の体験談、各参加校での記念写真と盛りだくさんの内容となりました。今回の病院での体験で「看護師への夢を現実になりたい」など貴重な意見もありました。この経験が学生たちの将来の夢につながってくれることを期待しております。



病棟で患者さんのケアも実施

#### 第30回那須赤十字病院病診連携懇談会

#### 150名参加/5月25日(木)

当院では病診(病院と診療所)・病病(病院と病院)連携を積極的に実施して※1[かかりつけ医]の推進を行っております。当院マイタウンホールにて地域の先生方との連絡会と、引き続き懇親会も実施されました。

これからも地域の方々の為に、那須赤十字病院と近隣の病院・診療所をはじめとする関係機関との連携を大切に地域の為に努力していきます。



マイタウンホールでの懇親会の様子

※1) かかりつけ医 患者さんやご家族の日常的な予防と治療、健康管理をおこなってくれる身近なお医者さん

## 病院ホームページ バナー広告募集

病院ホームページのトップページに広告を掲載しています。

### ■掲載位置

A:全ページ左側の病院が指定する場所。

B:全ページ下部の病院が指定する場所。

### ■掲載位置

A枠:縦70ピクセル×横220ピクセル

サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

### ■掲載期間

一ヶ月を単位とし、最長1年

### ■募集枠

A枠:3

B枠:4

### ■掲載料金

A:15,000円/枠/月

B:10,000円/枠/月

### ■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

E-mail: nrchp@nasu.jrc.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.nasu.jrc.or.jp/>

## 「プラタなす」に広告を掲載しませんか

病院広報誌「プラタなす」に掲載する有料広告を募集しています。

■広告の大きさ 縦30mm×横95mm

■掲載期間 1号単位(4回/年発行)

■募集枠 最大4枠

■掲載料金 20,000円/枠

■掲載期間 発行号単位

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

## マイタウンまつり2017

那須赤十字病院は基本理念「マイタウン・マイホスピタル～地域に根ざし、ともに歩み心ふれあう病院に～」を基本理念に、日々活動しています。今年度も引き続き、第3回となる病院祭を開催します。

ぜひ、家族や友人を誘って遊びにきてください。

●とき 平成29年10月14日(土)

●ところ 那須赤十字病院

●問合せ

那須赤十字病院 総務課 23-1122(代表)

## 献血にいこう!

### 「血液を確実にお届けするために」

～あなたの善意が患者さんの尊い命を救います～

日時:平成29年8月31日(木)

場所:那須赤十字病院 時間外入口(献血バス)

問合せ:那須赤十字病院 社会課 23-1122(代表)

400ml献血のご協力をお願いします。

## 本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma救護服ぬいぐるみ」「CroKumaナースぬいぐるみ」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

### ●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4

那須赤十字病院 総務課 プラタなす第18号 プレゼント係

FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第18号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第18号 プレゼント係」

●応募締切り 2017年8月31日(木)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

## 今月の表紙

6月26日からの5日間、わくわくチャレンジの中学生6名の受け入れがありました。病棟での体験が中心となり、充実した体験ができました。病院での体験や経験が、生徒達の将来の夢に繋がってくればと期待してやみません。



## 編集後記

皆様、夏休みはいかがお過ごしですか?

夏本番です。今年もぐんぐん気温が上がってきます。熱中症を予防しつつ、十分な栄養と睡眠を心がけ頑張っていきましょう。

総務課 係長 秋元英輝

## 那須赤十字病院

### 基本理念

マイタウン・マイホスピタル  
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

### 基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

## プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.18

発行日 2017年8月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷